

ウィークエンド

わが本 わが母校

一橋大学商学部への入学式当日に、体育会ゴルフ部に入学した。会社を継ぐつもりだった私に、「将来役立つ」と母から強く勧められ

一橋大学

蒲田工業社長

かまた よしあき
蒲田 善明氏 (56)

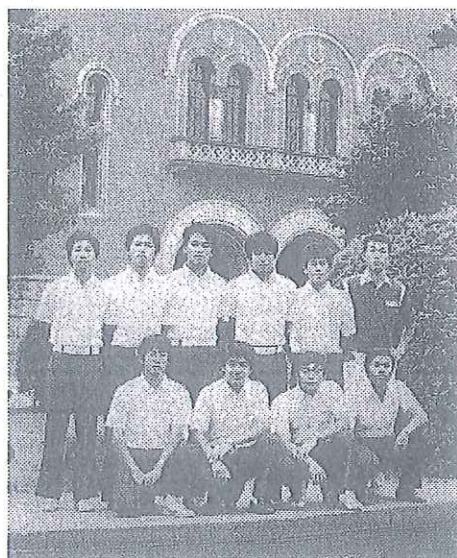


ていたことが背中を押した。以来熱中し、3年次には主将を務めた。ゴルフは今でも続けており、副主将だった佐藤正嗣君(三菱重

ゴルフでリーダーの心得

工業)、橋本佳也君(大阪ガス)らの同期や後輩と交流し元気をもらっている。あの選択は正解だったと、母に感謝している。

練習は月水木金。土日はゴルフ場で働くことで、月曜日の練習の場を提供してもらった。練習後は雀荘に行き、友人の下宿に泊まった。当時は尾崎将司、中嶋



ゴルフ部の同期と(後列左から3人目が本人)

常幸、青木功やトム・ワトソンといったプロが活躍した時代。同期は皆、文武両道。ゴルフに対してもまじめで、ああでもない、こうでもないと言語り合った。

プロの練習会にギャラリーとして参加する機会もあり、選手の姿から刺激を受けた。もちろんゴルフだけでなく、仲の良い部員二人

が一人の女子部員をめぐってケンカになり仲裁に入っただけ。思い出もある。

一番重要な試合は関東学生ゴルフ連盟の秋のリーグ戦だ。選手登録できるのは7人。部員約30人の中から、主将と副主将が出場選手を決める。3年生10人の全員が出られるわけではないし、部の将来を考えれば

後輩も出したい。同期に結果を告げる時は、一対一で呼び出した。すると、話す前から感づいた様子で「自分の分まで頑張ってたよ」と言ってくれ、心苦しかった。

卒業後は野村証券、当社の仕入れ先であるニッタ(大阪市浪速区)で勤務し、1991年に当社社長に就任した。世の中、いろんなリーダー像があるが、どんな仕事でも背中で引っ張っていくのが基本。部の練習はもとより、あいさつや後片付けなども口だけでは人は動かず、姿勢で示すことが大事だと学んだ。主将になった時、親父が喜んでくれたのが印象に残っているが、そんなことを学んでほしかったのかもしれない。(東京都港区高輪4の8(33))